

こころをつなぐまちづくり



人権シリーズ vol.87

この作品は、人権のまちづくり国見部会の人権作文に応募された国東市立熊毛小学校五年（現在六年生）の安部省吾さんの作品です。

次は勇気を出したい

熊毛小学校 五年 安部 省吾

夏休みにお母さんといっしょにスーパーに買物にいったときのことです。ティッシュのコーナーに、こしの曲がった背の低いおばあちゃんがありました。そのおばあちゃんは、押し車によりかかって、ティッシュを置いたたなの上の方を見ていました。何だか困ったような顔をしていたので、ぼくは、「高い所にある品物を取りたいけど、手がとどかなくて困っているのかな。」とおもいました。でもぼくは急いでいたし、だれか他の人が来て声をかけてくれるかなと思って、そのままお母さんの所に行つて



▲ 2013 年 2 月国見町人権フェスティバルで発表する安部省吾さん

しまいました。

後になって考えると、おばあさんに悪いことをしたなあと反省しています。急いでいたこともあったけど、声をかける勇気が出なかったのです。

あの時ぼくが「どうかしたんですか。ぼくが取りましようか。」と声をかけていたら、おばあちゃんは困っていなかったかもしれないですね。これからは、困っている人や悲しそうにしている人を見かけたら、「ぼくがしなくてもだれか他の人がするかも・・・」と思わず、自分から進んで声をかけていきたいです。みんなが相手の立場になって行動できたら、すみやすい社会になると思います。

スーパーのでき事を通じて、スーパーの中にもいろいろな工夫があったらいいなあと思いました。例えば、困った時に店員さんに来てもらうためのボタンや高い者の人が買い物しやすいような品物のならべ方などです。

■お知らせ

☆隣保館まつり（隣保館）

☆同和問題学習会（隣保館）

8月24日（土）午前10時～

問い合わせ 国東市隣保館

国東市武蔵町古市1138番地1

☎ 0978・68・1722

ぼくの家には、少し足の不自由なおばあちゃんがあります。おばあちゃんは、階段の上がりおりや立ったり座ったりする時、足が痛いと言います。だから、頼まれた時は、ぼくが物を取りに行つてあげます。そんな時、おばあちゃんはうれしそうな顔をしています。おばあちゃんの役にたてて、ぼくはうれしいです。

家でも学校でも社会でも、困っている人を見かけたり、用事を頼まれた時には、気持ちよく進んで行動する人になりたいです。

＜第6回国東市隣保館祭り「こころの川柳」応募作品＞

- ☆携帯の写メでは足りぬ初孫よ 武蔵町 馬場 千代子（ペンネーム）
- ☆うちわ持つゆたかの袖に宵祭り 武蔵町 西田 フサ子

